



# 「マークテストで運任せ」

班員 黒木 龍之介

柳田 陽光

有馬 佑晃 甲斐 茉莉花

指導者

寺崎泰弘先生

永吉彩芽

田部豊様

## 研究動機

マークシート形式のテストで、答えの偏りなどをもとに、あてずっぽうに解答した場合、どのような結果になるのか気になったから。また、その結果からあてずっぽうよりも地道な勉強の方が効率がいいということの証明になるとも考えたから。

## 先行研究

ネット上のWebサイト(武田塾)で共通テストの問題をすべて勘で解いてみるという実験をコンピューターを活用して行い点数を見てみるというもの

2021英語運だけシミュレータ	試行回数	平均値	中央値	最高点	最低点
今回の得点	10000	23.0141	23	55	2
30	点数分布				

また、満点の確率は計算上、38問すべてを勘で当てられる確率は **約1/400** くらい！

## 研究方法

①日本史B、世界史B、地理B、英語(リーディング)、英語(リスニング)の5科目の共通テスト3年分の結果から**解答の番号の傾向がどのようなものになるか調べる。**

②調べた結果をもとに2024年の共通テストの解答案を作成し解答して、**どれほど当てはまるかを確かめる。**この時、問題は見ずに解答していく。

<解答案の作成方法>

1、各教科三年分の問題番号と解答番号を照らし合わせ、1番多かった番号を作成番号とする。

例:

問題番号\解答番号	2021年	2022年	2023年		作成番号
①	1	1	1	→	1
②	1	2	2	→	2
③	1	2	3	→	

2、例の③のように、三年間解答番号が異なった場合、それぞれの解答番号に続く解答番号が、一番多いものを作成番号とする。

例:解答番号2の後に続く番号

続く解答番号\個数	2021年	2022年	2023年		合計
1	1	1	1	→	1
2	2	2	2	→	6
3	3	3	3	→	9
4	2	1	1	→	4
5	1	0	0	→	1
6	0	0	0	→	0

よって、例の③に入る作成番号は、3  
また全部1~4の分かりやすいものも調べる。

必要な道具 ・各教科の3年分の共通テスト

## 仮説

共通テストに絞ると3年分しかデータがないのも含めて結局、当てずっぽうも過去のテストからの推測でもは得点はあまり望めないと思う。

## 結果・考察

結論、過去のデータからの高得点はもちろん狙えなかった。

まず、研究方法から作った解答案だと各科目で右下の[作成案]グラフの通りの正答率となった。

元のデータと

なったのが

2021~2023で

ある事も含め

やはり、

2021~2023

に比べても

2024の正答率は

低くなっている。

→少なくともこの解答案では頼れる点数が取れないということが分かる。

また全部1、2、3、4の場合も含めて調べたとき

2021~2023では解答案の正答率を超えることは無かったが、2024で正答率が1~4のときとほぼ同じになった。

→上の通り正答率が

下がったことと2024は

他の年に比べ比較的

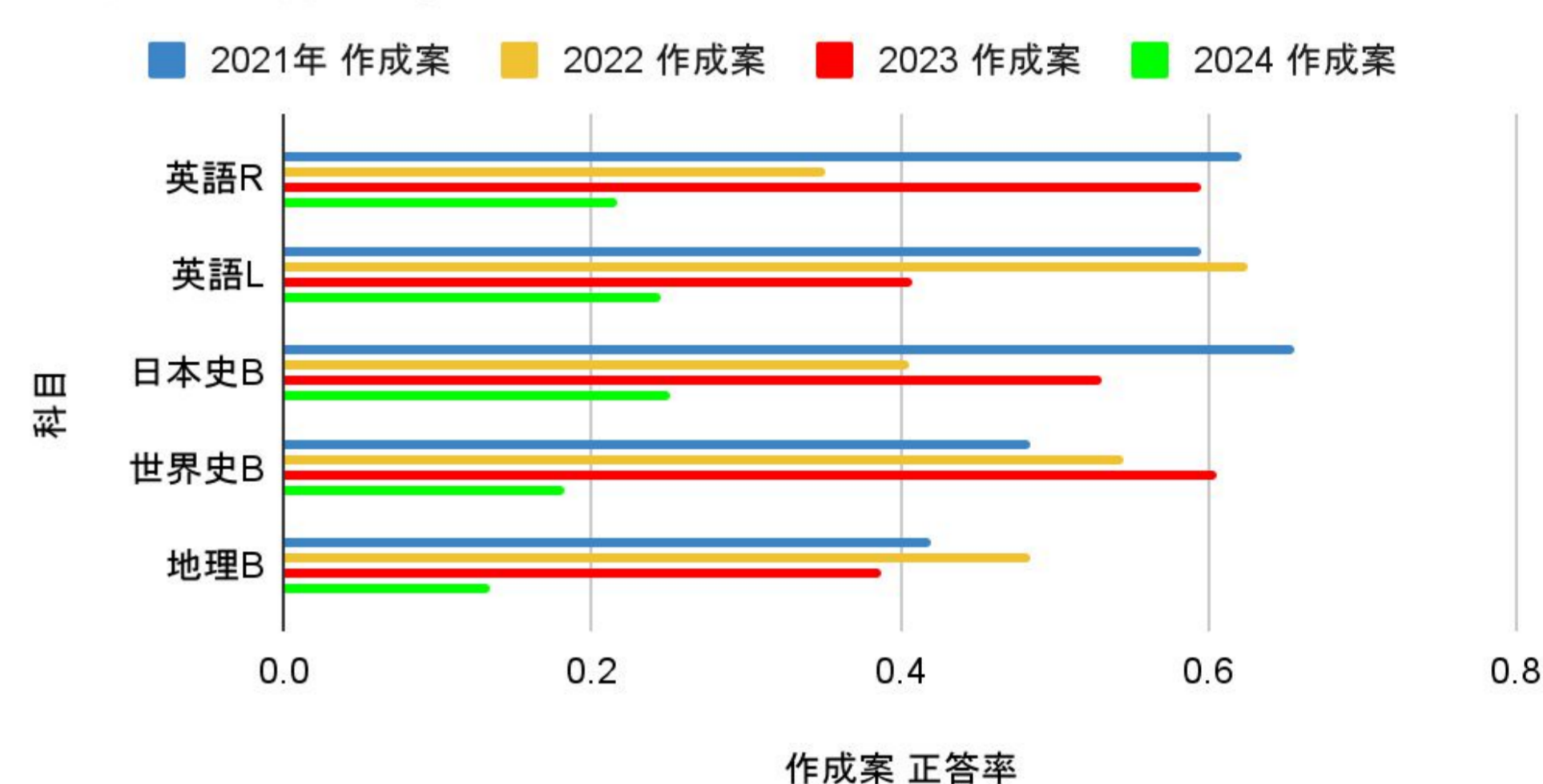
1~4が均等になって

いたからだと考える。

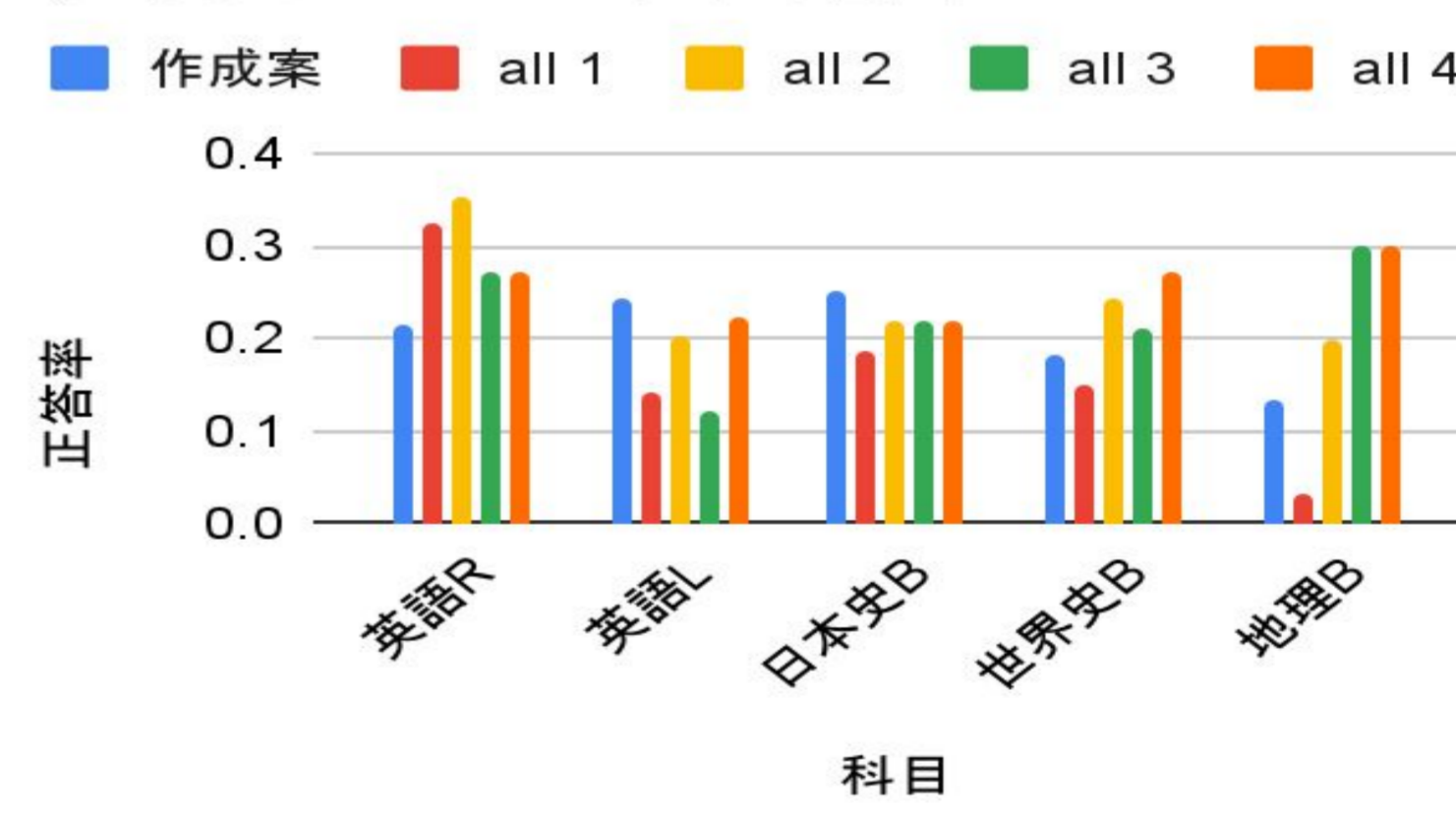
四年分あった正答率の結果を平均したもの。  
(四年分の正答率の和)を  
(年数=4)で割り算

この解答案での正答率は一択に絞るよりは十分にあると考えられる。

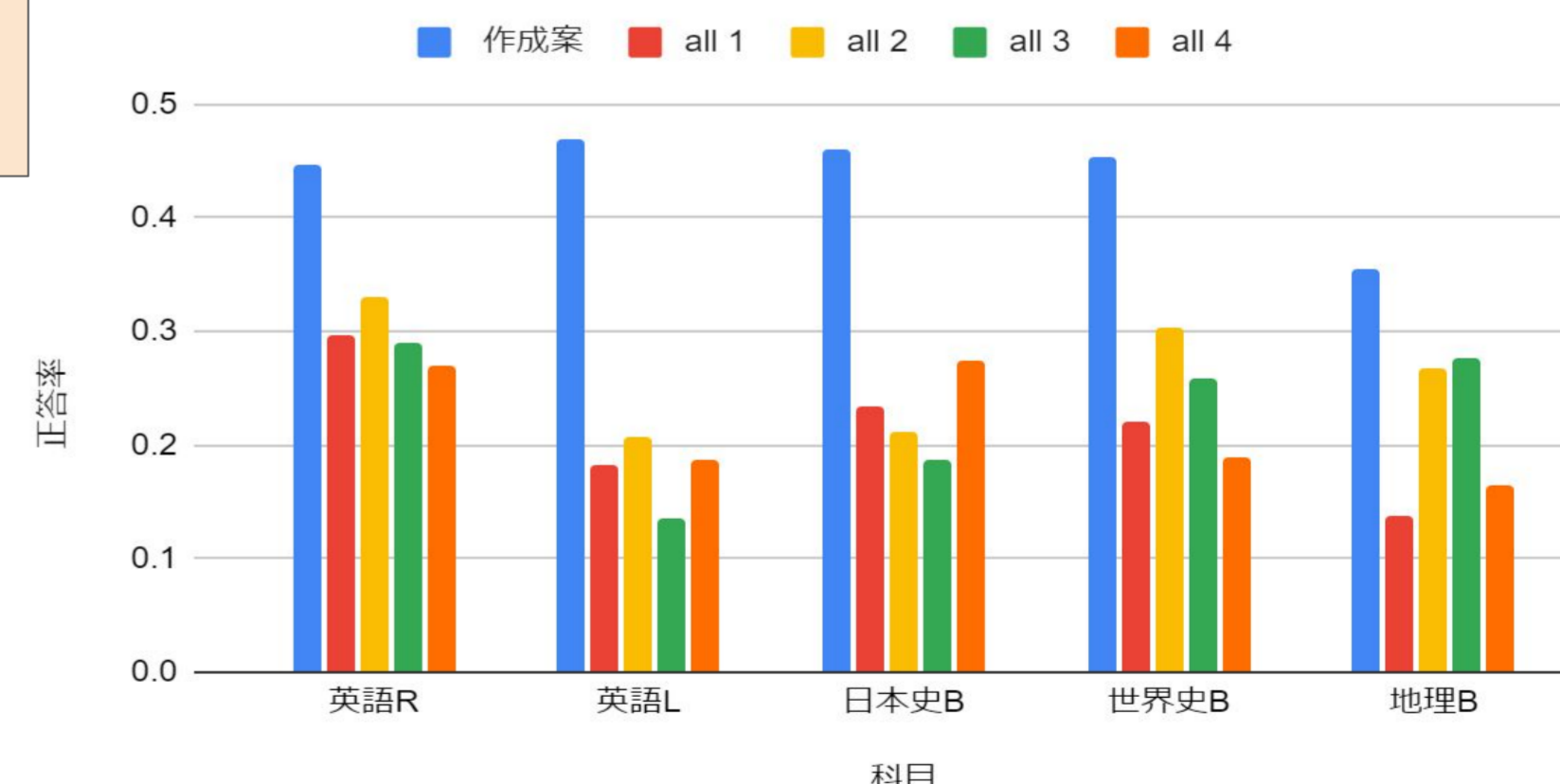
グラフ1 作成案



グラフ2 2024年 正答率



四年間の平均値



## 結論

現段階では偏りなどは見つからず変に楽するより、やはり勉強を頑張るべきである。

意外にも2、3が多いという訳でも無い。

テストは確率に頼らず、しっかり実力で挑みましょう！

## 今後の課題

共通テストは3年分しかなかったの  
で、10年分などもっと材料があるテストで傾向を調べてみたい

また、他の解答案の作り方であったり、もっとこの結果を考察を深めたい。

## 参考文献

先行研究(共通テストですべて勘で...)  
<https://www.takeda.tv/saga/blog/post-206884/>